

## 世界の今

移民排斥、カースト差別、そして日本でも広がる分断——。世界各地で社会の亀裂が深まっている。そんな中、SGI（創価学会インタナショナル）は生命尊厳の哲学を根本に、差異を超えて「地涌の蓮華」を広げてきた。本企画は、オランダとインドで奮闘するメンバーを通し、対話と励ましの実践が希望を生む瞬間を追った。

## Stand-Alone Spirit "一人立つ精神"



オランダ、イタリア、インド、フィリピン、日本、台湾——  
国や地域を超え、信頼の絆でつながる青年部メンバー

同性婚や尊厳死も世界に先駆けて法制化されている。ピアントニダ地区部長は語る。「オランダでは意見を押し付けては」

いけない。どこまでも心を開いた対話が必要なんだ。座談会はオープンダイアログ（開かれた対話の場。オランダの象徴だよ）

1月22日、アムステルダム市中心街・ゴッホ美術館近くの会場で開かれた青年座談会も同じような光景が広がっていた。さまざまなバックグラウンドを持つメンバーたちが、それぞれ思いを語っていく。

男子部のマサト・セザワさんは「昨年、ジャナリスとして日本からアムステルダムに渡ってきた。当初は、日照時間が短く曇りがちの冬の天気が気がめいり、食事にもわず、心晴れない日々が続いた。そんな時に参加した青年部の研修会「オランダの人は自分の状況を事細かに話さず、しかし、皆それぞれ何かを抱えながら頑張っている。そんな彼らの自立した心に勇気づけられました」

「自分は一人ではない。けれど、一人立って戦おう」。そう折りに、仕事に向かう中、昨年制作したドキュメンタリー映画が高い評価を。家電や服、自転車など、あらゆるものを地域のボランティアが無料で修理してくれる。オランダ発祥の

## 座談会はオープンダイアログの場

開かれた対話

「世界は神がつくったが、オランダはオランダ人がつくった」との言葉がある。オランダは現在でも国土の4分の1が海面より低い。その多くが、13世紀以降の干拓事業によって、「自力で造り出した」土地だ。アムステルダムも高潮の被害を防ぐ

アムステルダムを池田大先生は4回訪れている。3度目の訪問となった1973年（昭和48年）5月、パリからの帰国の経由地として、スキポール空港に1時間ほど滞在する予定だったが、機材トラブルで出発



世界遺産に登録されているアムステルダムの運河地区。運河と歴史的建造物が織りなす美しい景観は、世界経済の「要」であった17世紀当時の面影をそのまま残す



ために、アムステル川の河口に「ダム」を築いたのが歴史の始まり。本年度で誕生から750年を迎える。運河と歴史的建造物が織りなす美しいアムステルダムの景観が形成されたのは、17世紀。商業都市として機能させるべく、中心街の外側に何本も運河を扇状に掘り、沼地を街へと変えた。

当時のオランダは世界経済の要であり、アムステルダムは世界最古とされる証券取引所がつくられたなど、商業と金融の中心地として栄えた。アムステルダムは、多様な民族、宗教を持った人々が多数流入する「移民都市」となり、さまざまなよき者、民族、宗教の異質者をも積極的に包摂していく政策が取られていった。

アムステルダムは毎月、座談会を開催している。1月21日夜、郊外のハウテンフェルデルト地区の座談会を取材した。

19時30分から、アルセン出身のメリッサー・スタウツ地区女子部長の導師で進行・唱題を。20時からインド出身の女子部チャリ・ハンサルさんの司会で、それぞれが自己紹介。オランダ人はもちろん、イタリア、ポルトガル、韓国、アルゼンチンと国籍は多様。友人も人々参加していた。会話は全員、母国語ではない英語で。オランダ語しか話せない高齢者がいる時などは、誰かが通訳するという。

オランダSGIでは毎月、座談会で研鑽するテーマを決めている。1月は「人間革命」。同SGIの機関誌「インディゴ」に掲載された池田先生の指導を皆で読み、その後、「人間革命はあなたにとって何を意味する？」などの定められた質問に、各人が答える形で会話は進む。途中、友人の一人が質問を、「革命」とは、大きな変化を起こすことなのか。イタリア人のギド・ピアントニダ地区部長が「不幸を幸福へと転じていくことかな」と答えると、他のメンバーもそれぞれ意見を述べていく。ディスカッションは1時間ほど続き、座談会は終了した。400年ほど続いた、「移民都市」の歴史を刻み続けたアムステルダムは、「自由と寛容」が何より重んじられる。17世紀の哲学者スピノザはユダヤ人の移民3世としてアムステルダムに生まれ、迫害に屈することなく、「意志とは何か」「自由とは何か」を世に問い続けた。同じ時代を生きた哲学者ジョン・ロックもイングランドの内戦からアムステルダムに亡命して、『寛容に関する書簡』を執筆した。個人の意思を尊重する精神は現代のオランダにも受け継がれる。

先生の手紙を皆で読み、その後、「人間革命はあなたにとって何を意味する？」などの定められた質問に、各人が答える形で会話は進む。途中、友人の一人が質問を、「革命」とは、大きな変化を起こすことなのか。イタリア人のギド・ピアントニダ地区部長が「不幸を幸福へと転じていくことかな」と答えると、他のメンバーもそれぞれ意見を述べていく。ディスカッションは1時間ほど続き、座談会は終了した。400年ほど続いた、「移民都市」の歴史を刻み続けたアムステルダムは、「自由と寛容」が何より重んじられる。17世紀の哲学者スピノザはユダヤ人の移民3世としてアムステルダムに生まれ、迫害に屈することなく、「意志とは何か」「自由とは何か」を世に問い続けた。同じ時代を生きた哲学者ジョン・ロックもイングランドの内戦からアムステルダムに亡命して、『寛容に関する書簡』を執筆した。個人の意思を尊重する精神は現代のオランダにも受け継がれる。



世界中から赴任した駐在員が多く住む、市郊外のハウテンフェルデルト地区の座談会

## 環境クリエイターって、どんな人？



空間空間 クリエイター



カーボンニュートラル クリエイター



スペースライフ クリエイター



クリーンエア クリエイター



まちづくり クリエイター

高砂熱学には、あたらしい空気を生みだす、さまざまな人がいます。人々のくらしをつつみ、つないでいく。その空気も、それをつくる人の姿もみえない。だけど、感じる事ができる。ほら、深呼吸をするたびに。空調で培った技術で、その枠組みをこえて。私たちは、人に、社会に、最適な空間を生みだしていきます。

環境革新で、地球の未来をきりひらく。

環境クリエイター®  
高砂熱学